

令和元年度にじいろ保育所自己評価

保護者アンケートを実施するとともに保育園での自己評価を実施しました。
保育の質の向上を図っていくことは保育所の責務であります。これからもより一層
保育理念・保育方針・保育目標等を共通理解し、全職員が心を一つにして研鑽にはげみ
保護者の皆様と一緒にお子さまの健全なる成長に関わってまいります。

評価について

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

Aーよくできている Bーほぼできている Cー努力が必要

評価対象期間

平成31年4月2日から令和2年2月28日

評価者 園長 中牧 利恵子

評価責任者 代表 山崎 一浩



自己評価の観点	評価
1. 園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について	
①保育理念、園の保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有している	B
2. 保育について	
①一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	B
②年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	A
③園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している	A
④気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気・照度など配慮している	A
⑤子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	B
⑥それぞれの子どもの関する必要な情報を共有している	A
⑦保育についての話し合いをよくしている	A
⑧保育士自身が楽しんで保育をしている	A
⑨それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	B
3. 健康管理について	
①日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている	A
②玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	B
③乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されている	A
4. 行事について	
①行事の種類や実施回数は適切である	B
②行事のねらいを計画や実施に十分生かしている	A
5. 食育について	
①食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B
6. 運営について	
①園長や職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある	B
②各種会議を適切かつ効率的に進めている	A
③打ち合わせ回数、時間、内容は適切である	B
7. 保健・安全指導員について	
①避難訓練を計画に基づいて適切に実施している	A
②事故や災害に適応できるマニュアルをすぐに見ることができるようにしている	B
③室内の衛生等の清掃に心がけ気持ちの良い環境に心がけている	A
8. 研修について	
①実践研究に取り組み、日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている	B
②部外研修への参加態勢の充実を図っている	A
③研修報告を園内で実施している	B
9. 情報について	
①園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している	A
②園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している	A
10. 設備について	
①施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている	A
②掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している	A
11. 保護者支援について	
①子どもの送迎時に子どもの様子を伝え合うようにしている	A
②フリー参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている	A
12. 開かれた保育所づくりについて	
①職員による育児に係る「子育て相談」は充実している	B
②医療機関等、専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している	B
③来客や地域の方に明るく挨拶をしている	A
13. 情報発信	
①園だより、クラスだより、ホームページ等で情報発信に努めている	A

評価のまとめ(反省・課題・改善点)

- ・今年の園のテーマは、自主性、個性を大切にすること、子どもの意思を尊重した保育としてきた。今後も子どもが安心して様々な物事に取り組むことができる環境の下、いまの自分が持っている心身の力を存分に発揮できるよう努めていく。
- ・乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、一人一人の子どもがどのように守られ、育てられ、子ども時代にふさわしい経験を積むかは、その後の成長・発達に大きく関わる。そのことを意識して今後の保育活動につなげていく。
- ・保育の記録や各自の自己評価を、研修やカンファレンスを通して確認し、みんなで話し合うなかで、取組みの結果や保育所の課題について共通認識を深めていく必要がある。職員の協働性を高めながら、課題意識をもって次の保育の計画に活かしていくことや、保育所の組織としての機能を高めていくことが重要であることから、今後も情報を共有した保育を実施していく。
- ・保育士自身が楽しんで保育をすること、保育についての話し合いを密に保育士間での連携をとって行くよう今後も努めていく。
- ・保護者一人ひとりに合った対応を行い、信頼関係をつけ保護者支援に今後も繋げていく。
- ・園内、園外衛生面に気をつけながら四季を感じられるよう自然に触れあそべるよう工夫していく。また、食育にもつなげていきたい。
- ・子ども達が何に興味を持っているかを把握し、遊びの中から学ぶ体験や、心が動く経験などを通して、豊かな感性を育てていきたい。
- ・「保育園に明日も来たい」と思うような環境づくりや、気持ちに持っていくように日々保育活動を行っていく。
- ・疑問に思うことは早めに伝えて、その都度解決していく。
- ・自分の役割が分からない際は、その都度確認し、疑問の無くなるまでしっかり理解しておく。
- ・ホワイトボードは、はっきり見えやすいので、記入するのは良いのであるが、誰にも見える、つまりは保護者も見るので、設置場所を考えた掲示の仕方も考えていく。
- ・情報を聞いた人が担任に口頭で伝えることを徹底し、こども・職員の扱いの格差をなくすよう心掛けていく。
- ・気になる子どもに対してのネットワークを全職員が今後も情報を共有する。
- ・情報の漏れが無いように、連絡事項を全員が共有するためのツール（ノートやホワイトボードなど）を利用したり、伝え忘れ等がないか確認し合う環境に今後も努めていく。

- ・子ども達の発育・発達状況を伝え合い、問題があれば話し合い解決策を探す保育を実践する。
- ・職員間のコミュニケーションをしっかりと取り、報告・連絡・相談を怠らないようにする。
- ・連絡事項は連絡帳を書く時や、ミーティングを行い全職員に必ず伝わるように今後も努める。
- ・ミーティングも課題解決の場になるように、大切な時間として今後もとらえていく。
- ・子どもの動き方や、その時にしている遊びによって、危険な瞬間も違うので、気づいたらその都度声を掛け合い、安全が確保できるようにする。
- ・報連相をきちんとし、全ての職員と意思の疎通をし、和やかに過ごせる保育園にしていく。
- ・当園が、自己評価の取組を基盤に、第三者評価など外部評価を受けることは、評価に客観性を増し、保育所の説明責任をより一層適切に果たすことつながると考えていることから、今後検討していきたい。
- ・今年も同様アンケート結果を受けて、職員同士の連携・保育に対する意識の高さが、少しずつではあるが年々向上している。今後も日々の、職員同士の話し合いやコミュニケーションを大切にしてい
- く。
- ・保育の内容や自己評価を保護者や地域社会等に公表することは、保育所が社会的責任を果たす上で、たいへん重要と考えている。公表を通して様々な人との関わりが生まれ、そのなかで、自らの保育の充実を図っていくことが期待されることから、今後の検討課題としていきたい。また、タイムリーなホームページの更新を行い、情報発信に務めていきたい。